

Special Need Education Research Center

SNERC通信

(第20号-2011年3月)

国立大学法人 筑波大学
特別支援教育研究センター
センター長：河内 清彦
〒112-0006 東京都文京区小日向2-16-15
TEL&FAX：03-3942-6923
<http://www.human.tsukuba.ac.jp/snec/>
mail：snec@human.tsukuba.ac.jp

■ 巻頭言

「社会性・人間関係をめぐって～体の動きを合わせることの楽しさ」

筑波大学特別支援教育研究センター 長崎 勤

自立活動に「人間関係の形成」が新たに加わったり、東京都が自閉症児の教育課程の柱として「社会性の学習」を位置づけたこともあり、社会性・人間関係の支援への関心が高まっています。私もこの2年間、東京都の自閉症教育推進委員会の委員として、3つの特別支援学校を訪問し、「アセスメント→指導案の作成→授業→授業改善」のプロセスを先生方と共に行ってきました。そこでは附属大塚特別支援学校の先生方と共同研究で開発した初期社会性のアセスメント（AES）と支援プログラムも用いられました。この2年間の東京都の先生方との実践を通して、社会性・人間関係の支援についてたくさんの学びがありましたが、その一つが、「身体の動きを合わせ、そのことを楽しむこと」の重要性です。健常の赤ちゃんですとお座りができるようになると、お父さんと向かい合って、体を引いたり引かれたりする「お船はぎっちらこ」遊びなどをきゃっきゃと笑いながら楽しみますが、自閉症スペクトラムの子どもたちでは、この社会性の出発点が難しいようです。しかし、分かりやすい文脈や手がかりを用意することによって、「身体の動きを合わせること」が少しずつできるようになり、そして何よりも、「そのことを楽しむ」ようになってきます。そうすると注意の共有や情動の共有も起こってきました。このような自他同型的な理解はやがて、役割の交代などの社会的認知へとつながります。ことばを持っていたり、認知水準が高いお子さんでも、体の動きを合わせることの楽しさを味わうことは、他者と何かを共に行い、そのことを心地よいと思えるという協同活動など社会性の基盤を形成することになるといえます。社会性・人間関係の支援のためにも、このような基礎的な研究がもっと必要です。



■ 現職教員研修生の「研修日記」



各附属学校での実習や特別支援教育研究センターでの演習等のスケジュールが1月末に終わり、現在は研修成果報告書の作成に取り組んでいます。今回は、桐が丘特別支援学校で実習を終えた成田さんと大塚特別支援学校で実習を終えた齋下さんから「現職研修生日記」に寄稿していただきました。

【 現職教員研修生から 】



4月5日、センターの先生方や研修生の皆さんにお会いし、場違いなところに自分が来てしまった気がして、気後れしながら開講式に参加していたことを思い出します。1年が終わろうとしています。今まで知らなかったことや大切なことにたくさん気づくことができ、本当に有意義な1年を過ごさせていただいたと感じています。

この1年間で一番感じたのは、「根拠の大切さ」です。今まで経験を通して「なんとなくそう思っている」ことを、調べたり教えていただいたりして、1つ1つ明らかになっていくことで、揺るがないものへと変わっていくことを実感しました。また、自分が知りたいと思っていることを探る方法はひとつではないということです。そのために、視野を広げることが大切なのだと感じました。どれも当たり前のことなのかもしれませんが、センターで研修させていただかなかっただら、心からそう思えなかったと思います。あと1か月で研修が終わってしまうことが残念でなりません。研修生活を支えていただいたセンターの先生方や研修生の皆さん、ありがとうございました。4月から、この1年間で

得たことを生かして頑張りたいと思います。

埼玉県立宮代特別支援学校 成田 晶子

【 現職教員研修生から 】

静岡からセンターまで片道2時間弱の通勤が終わりを迎えようとしています。この1年、魅力的な講義や演習などは、私に多くの視点の広がりや今までの自分を見つめ直す機会を与えてくれました。

ただ自分で進める課題テーマに迫るために、どのように取り組んでいったらいいのか、最後まで悩み続けた苦しい1年でもありました。その方法を模索する中で、私にとって一番大きな収穫だったのは、附属校をはじめ都内近郊の特別支援学校を多く訪問できたことです。現場にいるとなかなか他校の実践を参観することができません。興味のある学校は積極的に参観し、普段の生徒の様子、教師の姿勢などを肌で感じ、担当の先生と話をすることで新たな視点をいただいたり、お互いに課題を共有できたりして、同じ教員として「繋がり」と「心強さ」を感じることでできました。これは、この研修の機会をいただいたからこそできたことです。本当に感謝しております。

きっと次年度、今までよりも少し広い視点で子どもたちのこと、自分たちの取り組みを見直すことができるのではと思います。そしてこれからも、この繋がりを基盤とした「学び続ける」姿勢を常に大切にしていきたいと思っています。



静岡県立富士特別支援学校 齋下 徹

■ 平成22年度現職教員研修成果報告会のお知らせ

1. 日 時 平成23年3月11日(金) 16:00～18:25
2. 場 所 筑波大学東京キャンパス小日向地区 402教室
3. 研修報告の内容

上田日登美	長野県小諸養護学校	知的障害特別支援学校における一人ひとりの学びを高める授業作りの在り方
工藤 智史	秋田県立比内養護学校かづの分校	知的障害特別支援学校の集団学習における主体的な授業参加を育む支援の在り方
齋下 徹	静岡県立富士特別支援学校	知的障害特別支援学校高等部におけるこれからの作業学習の授業づくりに大切な視点に関する一考察ーキャリア教育の視点を背景にしてー
成田 晶子	埼玉県立宮代特別支援学校	特別支援学校（肢体不自由）におけるキャリア教育の視点を取り入れた個別の指導計画の在り方
藺牟田 明	千葉県立袖ヶ浦特別支援学校	脳性まひ児の障害特性に応じた書くことの指導についてー国語と自立活動の時間の指導からー
中本 千絵	千葉県立松戸特別支援学校	自立活動の指導における関係者間の効果的な連携方法についてー“身体の動き”における自立活動部としての役割ー

■ 特別支援教育研究センターの仮校舎一時移転について

大塚地区の東京キャンパスが仮校舎に一時移転していますが、一時移転の期間は平成23年8月末までの予定です。なお、この期間の電話番号（FAX番号）とメールアドレスは変更がありません。移転場所は下記の通りです。

部署	移転場所
特別支援教育研究センター	旧文京区立第5中学校 文京区小日向2-16-15
教育研究科（特別支援専攻）	
附属学校教育局	
理療科教員養成施設	

部署	移転場所
人間総合科学研究科 （生涯発達専攻 生涯発達科学専攻等）	住友神保町ビル 千代田区神田神保町3-25-1
大学研究センター	住友一ツ橋ビル
大塚図書館	千代田区神田神保町3-29-1

■ 第13回筑波大学特別支援教育研究センター主催セミナーのご案内

特別支援教育の展開（2）

日 時 平成23年3月28日（月）

13:30～16:30

場 所 筑波大学附属中学校 育鳳館

（東京都文京区大塚1-9-1）

プログラム

13:00～13:30 受付

13:30～13:40 開会挨拶・趣旨説明

13:40～15:10 筑波大学附属特別支援学校間連携研究報告

- ①「見えにくさ」のある肢体不自由児に対する社会科指導
連携校：筑波大学附属桐が丘特別支援学校、筑波大学附属視覚特別支援学校
- ②発達障害や重複障害がある幼児のアセスメントと支援方法、園へのコンサルテーションの在り方に関する研究（2）座位の保持や移動に困難を抱える知的障害児の事例を通して
連携校：筑波大学附属大塚特別支援学校、筑波大学附属桐が丘特別支援学校
- ③小中学校の「特別支援教室」に求められる役割と機能について～その（1）附属学校の教材教具の集約と、それを整備したリソースルームの試み～
連携校：附属大塚特別支援学校・附属視覚特別支援学校

15:10～15:40 休憩

15:40～16:20 助言

筑波大学大学院人間総合科学研究科教授 藤原義博先生
筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授 佐島 毅先生

16:20～16:30 閉会挨拶

定 員 100名（申込不要）

参加費・資料代 無料

- * 受講に際して、特別な配慮を必要とする方は、3月18日（火）までに下記へご連絡ください。
- * 発表に関係する教材教具の展示を行い、休憩時間にパネルの説明をいたします。

主催 筑波大学特別支援教育研究センター 後援 国立大学法人障害児教育関連センター連絡協議会

お問い合わせ

筑波大学特別支援教育研究センター

TEL：03-3942-6923 FAX：03-3942-6938 E-mail:snerc@human.tsukuba.ac.jp

